我孫子オーディオファンクラブ（AAFC）

分科会へのご案内（会員による自主講座）

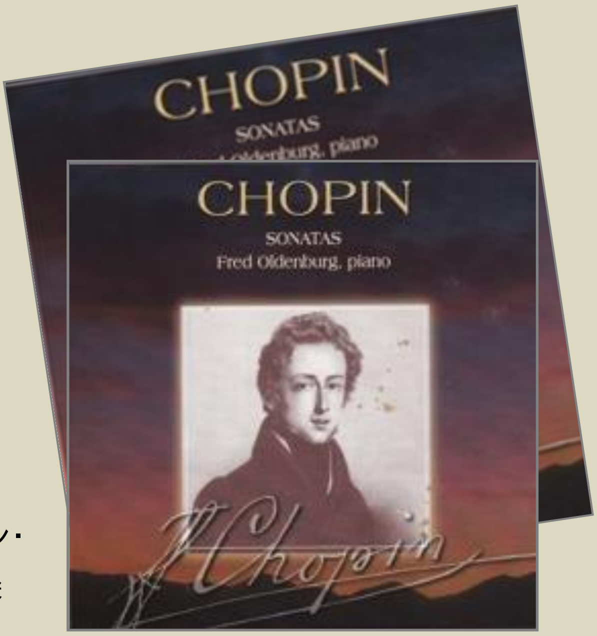
新シリーズ　『ピアノ音楽の楽しみ方』（6）

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！”

＜第六回＞　19世紀ロマン派音楽における”ピアノの詩人”ショパンの独自性 及びその作品に垣間（かいま）みられるバロックや古典派音楽の影響

ピアノ音楽の歴史を語る場合、”ピアノの詩人”ショパンを除外することは恐らく出来まい。ロマン派音楽の巨匠として19世紀の西洋音楽に特異な新風を吹き込むとともに　ピアノ音楽において同時代および彼以降の世代に計り知れぬ影響を与えた。ショパンのピアノ曲種には　故郷ポーランドなど民族舞曲に基づくマズルカ、ポロネーズ、ワルツなどローカル色豊かな作品、スケルツォ、バラード、舟歌、子守唄など彼独自の創造になる作品と共に、神童と呼ばれた学習期に学んだバロックや古典派音楽、中でもバッハとモーツァルトなど彼が尊敬してやまない先達の影響下の作品もまた決して無視はできない。

今回は　バッハの平均率クラヒア曲集から霊感を得たといわれる24の前奏曲集(1836-39)と典型的な古典派様式であるピアノ・ソナタから最も完成された第3番ロ短調(1844)の2つを中心に検討してみたい。
何れもショパン畢生の傑作といわれる作品である。
比較用演奏例としては　前者では　コルトー、フランソワ、アルゲリッチ、新録音のユンディ・リーなど　後者では　リパッティ、グレン・グールド、ポリーニ、フレッシュなトリフォノフなどを取り上げたい。どうか　お楽しみに。



次回はそれ以外のショパン特有の曲種を中心にショパン・コンクールの覇者たちの演奏を比較しながらショパン音楽の神髄や魅力を探ってみたい。

日　時／ 10月11日(日) 13:30～15:45
場　所／ 久寺家近隣センター　多目的ホール
発表者 ／ 高橋　敏郎　シリーズ　全10回(予定)
参加自由・入場無料
問合わせ／04-7184-3771佐藤　http://www.aafc.jp/